

機械力プラスみんなの力でグリーンアップ



パワーショベルの扱いは国本さん、お手の物。バケットを斜めに走らせて、達人の技

5月10日、地区一斉の水路清掃を行いました。この期間の作業は市全体が清掃活動を奨励しているもので、各地でたくさんの方の清掃活動が行われます。当地区では39人の参加者があり、小雨

が降るなか、

全員で力を合わせて作業を行いました。

一昨年来、機械力の導入

を行いました。これは、水路の底から道路の淵まで泥をはね上げ



る労力があまた。外周排水路のたい積土砂には既に大きな草が生えており、それらを取り除いたものは2トン積みのダンプカーに山盛りになるほどの量がありました。これらを人手でやろうとすると、そう簡単には終わらなかつたでしょう。

今回は、特に下流側の土砂のたい積が多く、本流の森下付近から榎野川に至る部分、それから西側の外周排水路には大量の土砂のたい積がありました。

今年も1班の国本さんをお願いして、ご自身の経営される会社の小型パワーショベルとダンプカーを提供していただきました。

りにも、過酷なので単純な力仕事は機械の力を借りることにしました。

ベンチシートの破片も出てきた。また、新たな管理範囲となった森下地区の水路についても清掃を行いました。ここは手作業でないとできません。三角公園から出たものなど、たくさんのご不燃物を回収しました。

悪水（排水側水路）泥上げが完了

毎年この作業は、水路関係の作業では最も重労働です。しかし、今年は直前まで降水量の少ない状態でしたので、泥上げ作業が僅かですが例年に比べれば楽でした。

5月3日、農家を中心とした水路の泥上げ作業が行われました。榎野川から汲み上げられた水や、東側の斜面から流れ出る山水などは水路を通って、一旦圃場に貯水されます。そのあまり部分が落水として排水路に出ていきます。その際に土砂も混じったまま流れるので、定期的に水路の底の泥を掬いだし



道路を横断する暗渠部分は長い鍬が必要

種まきから田植えまでの一連作業



流れるように作業が進んで、次々に苗箱が埋まる

5月4日、農事組合ではたくさんの方が出て苗箱に種まきをされてきました。話を聞くと何度かに分けて、田植えの時期に合わせるように種まきをしているとのこと。

この地域で使う苗箱は全部で4500箱、そのうちの1000箱程度を準備していました。泥、肥料、種がきれいに敷かれて、次々に出てきます。

苗箱は水を薄く張った圃場において稲の生長を促します。

防災対応は臨機応変に.....

5月3日の泥上げ作業の後に公民館での避難訓練と消防組の作業を行いました。

避難訓練では、自治会長は「非常時の時には必ず指定の場所に行くと考えただけでなく、身の安全を自ら考えるように」と指導がありました。

また、これまで非常用の土嚢を地区内数か所に置いていたのを改めて、一定数の土嚢を消防倉庫の北側に集中配置することとしました。

必要な方は消防組に申し出て下さい。



一度に8条もの苗を植え付けていく新型田植え機



消防倉庫の横に置かれた土嚢、日ごろはシートで覆われている

5月23日から、南側の一帯の田植えが始まりました。それまでに、圃場の準備をすまし、苗の運び込み、薬剤の搬入など用意するものは、たくさんあります。

田植え機は大型化して、植え付け速度は速いのですが、その作業を支えるスタップは休むことなく作業が続きます。

それでも、植え付けと同時に散布する薬剤のつまりが出たり、様々なトラブルがあるようです。

2日間でおおよそ7ヘクタールの圃場への田植えが終わりました。

中郷八幡の神社費

中郷八幡様の神社費について、多くの方がご賛同を頂き61000円の寄付金が集まりました。

先日神社総代の会計係に八方原地区神社費として納入いたしました。

皆様のご理解、ご協力に深く感謝申し上げます。 宮総代 原田茂樹

祈る幸運「キジの子育て」

麦の植え付けが始まってから、そこを住みかにする鳥たちが増えたように思えます。

5月の初旬、穏やかな日差しの中で、キジのつがいが麦畑から出てきたのを見つけました。

これから麦刈りが始まると、住みかの周りの環境は一変してしまいます。早く巣立ちしてくれると良いですね。しかし、周りには猫やカラスなど、彼らや



辺りを警戒しながら

彼らのひなを狙う連中が浮少なくありません。まさに自然の中の戦い。幸運を祈るしかありません。